

令和7年度事業報告

社会福祉法人 翡翠会



社会福祉法人 翡翠会

法人の理念

「地域と共に生きる」

翡翠会行動指針

「3つの顧客、3つのLIFEの最大化」

3つの顧客

- ・利用者様…翡翠会のサービスを利用する方々
- ・地 域…大網白里市をはじめ山武郡市の地域住民
- ・職 員…翡翠会に勤務する職員

3つのLIFE

- ・生 命…健康管理
- ・生 活…日常生活
- ・人 生…生きがい

利用者様への基本姿勢

- ・利用者様の意向を尊重して、多様な福祉サービスが総合的に提供されるよう創意工夫すること。
- ・利用者様個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成すること。
- ・利用者様の能力に応じ、自立した生活を地域で営むことができるよう支援すること。

翡翠会職員行動規範

- ・「清潔感」と「礼儀正しさ」
- ・「スピード」は誠意のあらわれ
- ・「普通の感覚」を忘れない
- ・「エコ」～「お金」「もの」「人力」を大切に使う
- ・「能動性」～自ら気づき行動する勇氣
- ・「チームワーク」～自己任務遂行と多様性の尊重

事業報告

令和7年度法人目標

人口減少・物価高騰など社会変化に対応する「スマート経営」を
実践し、「3つの顧客、3つのLIFEの最大化」を実現する

（重点目標）

- ・山武みどり学園の改修工事による利用者様・職員の生活環境の向上
- ・年間公休数を6日増やし、更なるワークライフバランス向上を図る
- ・（仮称）生産性向上部会を設置し、業務における課題抽出→改善→検証を事業所の枠組みを超えて行っていく
- ・キャッシュレス化の推進
- ・部署を超えた応援・協業の更なる推進

次年度への考察

堅調な運営と財務状況を背景に、山武みどり学園等の改修工事を行うことが出来た。その他車両の更新やICT推進に伴う設備投資を積極的に行った。

経費精算システムの導入が軌道に乗り、その上で利用料の収納代行サービスも開始、今年度キャッシュレス化は大きく進展した。

年間の公休数は6日増やし、それに伴い部門を超えたワークシェアを進めるてきたが、今後もこの部分は推進していく必要がある。

○令和7年度の主要な設備投資

	事業名	金額	補助・助成	補助金額
①	山武みどり学園居室改修	19,503,000 円		
②	山武青い鳥工房特浴増設工事	7,645,000 円	清水基金	5,300,000 円
③	山武みどり学園福祉車両増車	3,808,000 円	かわせみ会	3,808,000 円
④	山武青い鳥工房福祉車両増車	4,620,000 円	中山馬主協会	1,800,000 円
⑤	山武青い鳥工房福祉車両更新	2,119,800 円		
⑥	ほほえみの里かきつばた リフト浴導入	1,941,000 円	千葉県介護ロボット導入支援補助金	920,000 円
⑦	山武みどり学園インカム導入	5,544,220 円	千葉県介護テクノロジー導入支援補助金	750,000 円
⑧	ことぶき庵一休眠りSCAN導入	1,980,000 円	千葉県介護テクノロジー導入支援補助金	701,000 円

⑨	山武みどり学園ひまわりハウス 改修工事	10,032,000 円	千葉県強度行動 障害者受入拡大 支援補助金	4,519,000 円
⑩	山武みどり学園ラウンジ棟増築 工事	88,000,000 円		
⑪	送迎車両のバックカメラ・カーナビ搭載（7 台）	581,240 円		
⑫	全社員にノートPC・タブレット 端末付与	4,500,000 円		
総事業費		150,274,260 円	補助金額	17,798,000 円

○理事会

- ・令和 7 年 4 月 9 日 11：00～11：30（山武みどり学園）
議題：第 1 号議案 社会福祉法人翡翠会 障害者支援施設山武みどり学園
作業棟（ひまわりハウス）改修工事について（入札参加
資格委員会）
第 2 号議案 社会福祉法人 翡翠会 山武みどり学園(居室収納家具)
改修工事について（入札参加資格委員会）
- ・令和 7 年 5 月 17 日 11：00～11：30（山武みどり学園）
議題：第 1 号議案 社会福祉法人 翡翠会 山武みどり学園(居室収納家具)
改修工事について（入札結果・契約）
- ・令和 7 年 6 月 7 日 10：30～13：00（大網白里市中央公民館）
議題：第 1 号議案 令和 6 年度事業報告案について
第 2 号議案 令和 6 年度会計決算案について
監事監査報告
第 3 号議案 山武みどり学園作業棟（ひまわりハウス）改修工事に
ついて（入札方法・選定基準・予定価格）
第 4 号議案 山武みどり学園ラウンジ棟建設工事について
（入札方法・選定基準・予定価格）
第 5 号議案 定時評議員会の開催について
第 6 号議案 役員等賠償責任保険契約締結について
第 7 号議案 評議員選任・解任委員会の開催について
第 8 号議案 新評議員候補者の推薦について
第 9 号議案 諸規定の改正について
第 10 号議案 資金運用責任者の選任について
報告第 1 号 理事長の専決業務報告について

報告第2号 資金運用状況の報告について

- 令和7年6月25日 16:30~17:00 (山武みどり学園)
議題: 第1号議案 山武みどり学園作業棟(ひまわりハウス)改修工事について(入札参加資格委員会)
第2号議案 山武みどり学園ラウンジ棟増築工事について(入札参加資格委員会)
- 令和7年6月25日 17:00~17:30 (山武みどり学園)
議題: 第1号議案 役員任期満了に伴う改選について
- 令和7年7月24日 10:30~11:00 (山武みどり学園)
議題: 第1号議案 山武みどり学園作業棟(ひまわりハウス)改修工事について(入札結果・契約)
- 令和7年12月6日 10:30~12:30 (大網白里市中央公民館)
議題: 第1号議案 令和7年度補正予算案について
第2号議案 山武みどり学園ラウンジ棟建設工事について(入札方法・選定基準・予定価格)
第3号議案 山武みどり学園ラウンジ棟建設に伴う新規借入金の増額について

報告第1号 理事長の専決業務報告について

- 令和7年12月24日 10:30~11:00 (山武みどり学園)
議題: 第1号議案 山武みどり学園ラウンジ棟増築工事について(入札参加資格委員会)
- 令和8年1月24日 10:30~11:00 (山武みどり学園)
議題: 第1号議案 山武みどり学園ラウンジ棟増築工事について(入札結果・契約)
- 令和8年2月7日 10:30~11:00 (山武みどり学園)
議題: 第1号議案 カサ・ロサータ短期入所運営規程の変更について
- 令和7年3月21日 10:30~12:30 (大網白里市中央公民館)
議題: 第1号議案 令和7年度補正予算(案)
第2号議案 令和8年度事業計画(案)
第3号議案 人事について
第4号議案 令和8年度会計予算(案)
第5号議案 福祉充実計画策定について
第6号議案 諸規定の改正について
報告1号 理事長の専決業務報告について
報告2号 法人監査結果について

○評議員会

・令和7年6月23日 10:30~12:00 (サンライズ九十九里)

議題：第1号議案 令和6年度事業報告(案)について

第2号議案 令和6年度決算書類及び財産目録の承認について
監事監査報告

第3号議案 大越一博氏の理事選任について

第4号議案 大越純子氏の理事選任について

第5号議案 田中謙造氏の理事選任について

第6号議案 加藤利一氏の理事選任について

第7号議案 白石孝昭氏の理事選任について

第8号議案 古川正幸氏の理事選任について

第9号議案 大越将司氏の理事選任について

第10号議案 中瀬大輔氏の理事選任について

第11号議案 千木良俊彦氏の理事選任について

第12号議案 齋藤義和氏の理事選任について

第13号議案 高山義則氏の監事選任について

第14号議案 中関隆秀氏の監事選任について

第15号議案 定款の変更について

○評議員選任解任委員会

・令和7年6月7日 13:30~14:00 (山武みどり学園)

議題：第1号議案 評議員の選任について

○職員構成(令和8年4月1日現在)

山武みどり学園

	正職員	非常勤職員	
統括施設長	1	0	社会福祉士・介護支援専門員
課長	1	0	介護福祉士
主任	3	0	社会福祉士・介護福祉士・保育士
支援員	13	13	社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・保育士
事務員	1	0	
看護師	0	1	准看護師
栄養士	0	2	管理栄養士・栄養士
調理員	2	6	
合計	21	22	

山武青い鳥工房・山武青い鳥の家

	正職員	非常勤職員	
支援員	3	13	サービス管理責任者・社会福祉士・保育士
事務員	3	0	

看護師	0	2	正看護師・准看護師
調理員	1	0	
合計	7	15	

カサ・ロサーダ

	正職員	非常勤職員	
課長（施設長）	1	0	サービス管理責任者・社会福祉士
支援員	1	5	介護福祉士
合計	2	5	

翡翠の宿一休

	正職員	非常勤職員	
係長（施設長）	1	0	介護福祉士
支援員	0	2	介護福祉士
合計	1	2	

すえひろ工房やまぶき

	正職員	非常勤職員	
係長（施設長）			社会福祉士・介護福祉士・保育士・精神保健福祉士・介護支援専門員・サービス管理責任者
	1	0	
支援員	1	8	保育士
看護師	0	1	准看護師
合計	2	9	

ことぶき庵一休

	正職員	非常勤職員	
支援員	0	4	社会福祉士・介護福祉士・保育士
合計	0	4	

かきつばた

	正職員	非常勤職員	
管理者	1	0	介護福祉士
介護支援専門員	1	0	介護支援専門員
介護職	4	9	介護福祉士
看護師	0	2	保健師・准看護師
合計	6	11	

ほほえみの里 かきつばた

	正職員	非常勤職員	
係長（施設長）	1	0	介護支援専門員・介護福祉士
主任	1	0	介護福祉士

看護師	0	1	正看護師
介護職	6	10	介護福祉士
合計	8	11	

居宅介護支援事業所かきつばた

	正職員	非常勤職員	
管理者	1	0	主任介護支援専門員
介護支援専門員/ 相談支援専門員	1	0	社会福祉士・介護支援専門員
合計	2	0	

※正職員 49 名 非常勤職員 79 名 合計 128 名

○法人事務局

本年度事業の重点項目

マネジメント

- ・各事業所、法人事務局出納（出入金）業務効率化のため「キャッシュレス化」を一層進める。
- ・働き方改革（例、公休数を増やす。ICT や DX のさらなる活用など。）の継続実行。
- ・有給休暇取得の推進（申請しやすい職場環境の構築を目指す）

人材確保・育成

- ・人事評価制度を全面リニューアルする。
- ・実習生の受け入れと支援体制を確立する。
- ・人事異動を通じて、「人材連携と人材活性化」を図る。
- ・子ども食堂の継続実施。

次年度への考察

令和 8 年度の事務局は、基礎業務の堅実な遂行を土台としつつ、ICT 環境を最大限活用し、DX を通じて職員の働きやすさと経営判断の質を高める存在として機能することが求められる。

すなわち、

- ・表では安定した事務運営を支える“堅実な土台”として
- ・裏では DX を用いて法人全体を底上げする“静かな推進者”として

二つの役割を両立させることが、令和 8 年度の事務局に期待される姿である。なお、人事評価制度に関しては、パート職員への直属長による面談実施とそれら評価に基づく昇給を実施した。正職員については、新しい等級表・給与表の策定が完了し、令和 8 年度の給与実績へ反映予定である。

○山武みどり学園

実施事業

- ・生活介護（定員40名）
- ・施設入所支援（定員40名）
- ・短期入所（定員8名）

利用者状況

【施設入所支援】

平均年齢：全体 49.2 歳（男性 48.8 歳 女性 50.0 歳）

最高齢 ：72 歳（女性）

最年少 ：33 歳（男性）

障害支援区分（平均 5.73）

区分	1	2	3	4	5	6	合計
男性	0	0	0	0	8	20	28
女性	0	0	0	0	3	9	12
合計	0	0	0	0	11	29	40

利用稼働率

施設入所支援 99.1%

生活介護 108%

短期入所 68.2%

年間行事報告

月	目的	内容
4 月	季節を感じる	ピクニック
5 月	季節を感じる	ゴールデンウィークレク
6 月	好きな物を選択する	選択食 イタリア料理対決（ラザニア VS ボンゴレパスタ）
7 月	季節を感じる	七夕
8 月	季節を感じる	お盆レク
9 月	体を動かす 地域との関り	手をつなぐスポーツの集い 秋祭祭
10 月	体を動かす ハロウィン	フライングディスク大会 ハロウィンレク
11 月		
12 月	地域との関り	クリスマス会
1 月	季節を感じる	年末年始レク
2 月	好きな物を選択する	選択食

3月

る	ラーメン対決（茂原ラーメンVS 九十九里ラーメン）
体を動かす	みどボッチャ

本年度事業の重点項目

- ・利用者様のニーズを見極めた上で、日課の変更・居住環境の整備を行うと共に他事業所との連携を図る。
- ・緊急での利用希望について柔軟に受け入れを行うと共に、みどり学園では困難なケースについては他事業所と連携を図り受け入れ検討する。
- ・虐待防止・権利擁護の観点から、職員が積極的に 外部研修に参加する。外部研修に参加した職員は講師として職場内研修を 開催し、パート職員を含めた全職員が互いに学び合う機会を設け、意識醸成を図る。
- ・老朽化が見られる 1 階廊下の修繕工事を行う。また、その他の老朽化が気になる箇所についても修繕を行っていく。
- ・新人職員が入職した際に、メンター制度を活用し人材育成するとともに、事業所全体でのサポートを実施。
- ・人材確保が重要な要件となっているため、職員が休憩時間を利用者様とは離れた場所で過ごし、気持ちを切り替えて仕事に臨めるような環境を整える事を目的としたラウンジ棟の建設を予定している。

次年度への考察

- ・居住環境は居室内のタンスを改修し、ご自身の荷物の整理がしやすくなると共に、居室内を広く使用する事が出来るようになっている。しかし、利用者様のニーズに沿った日課、他事業所との連携については、日々状況が変わっていくため、その都度対応方法や連携を再構築する事が、今後も求められる。
- ・緊急での受け入れについてはみどり学園で 3 件受け入れを行っている。その他にも3件の緊急受け入れの要請があったが、利用者様の状況に合わせて同法人内の他事業所へ受け入れの引継ぎを行い、受け入れを柔軟に行っている。引き続き、柔軟に受け入れを行えるように連絡体制を整えていく事が必要。
- ・虐待防止・権利擁護については法人の虐待防止部会委員が虐待防止等の研修に参加した方が、支援課会議等で受講した内容の伝達、動画研修等でパート職員を含む全職員に実施している。
- ・1 階廊下の床の張替えを実施した。その他、修繕が必要な箇所については細かい物が多いが適宜対応を行って行く必要がある。
- ・新人職員に対してメンター制度によるサポート及び主任、先輩職員が全員で業務やメンタル面のサポートを実施した。新入職の職員の状況に応じて、メンター制度を活用し、新入職者の人材育成、サポートを引き続き行っていく必要がある。
- ・人材確保については、職員が気持ちを切り替えて仕事に臨めるよう、ラウン

ジ棟の建設が令和8年2月から始まっている。令和8年7月末で建設が完了する。その後、使用を開始していく。

又、インカムを今年度新たに導入し、支援に係る全職員がインカムを使用する事で、スムーズに支援に必要な情報共有を行う事が出来るようになった。今後も、DX 化および ICT 技術を積極的に導入することで業務負担を軽減する事で人材確保に繋げていきたい。



→居室タンス改修



→インカム導入（介護テクノロジー導入補助金） →リフト車寄贈（かわせみ会）

○翡翠の宿一休

実施事業

- 短期入所（定員 6 名）

利用者状況

平均年齢：全体 52.4 歳（男性 52.4 歳 女性 歳）

最高齢 ： 64 歳

最年少 ： 37 歳

障害支援区分（平均 4.8）

区分	1	2	3	4	5	6	合計
男性	0	0	0	3	2	2	7

女性	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	3	2	2	7

利用稼働率

短期入所 71.2%

年間行事報告

月	目的	内容
4月		
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		

本年度事業の重点項目

- ・現在、稼働については低い状況が続いてしまっているので、定期的に利用されている方の受け入れを継続しつつ、新規の利用者様を早急に確保し、稼働率 80%以上を目指す。
- ・複数の職員が一休夜勤に入っている為、情報共有、連携を取る。また、意見交換の場を設け、団結力を深めることで支援の質の向上に繋げていく。
- ・定期的に一休にて行事、イベントを開催し、利用者様の気分転換、安定を図る。
- ・障害者虐待防止法についての理解を職員に浸透させ、利用者様、ご家族様も安心して利用出来るようにする。
- ・利用者様のこだわりによるトラブルが見られるので、こだわりに配慮し、利用者様が安全に生活を送る事が出来るように環境を整える。
- ・緊急受け入れについて、みどり学園と連携し、柔軟に対応する。

次年度への考察

・稼働率は年間 71.2%であり、目標の達成はならなかったが、定期利用の方の利用日の拡大や、ロング短期への移行などで稼働率の向上を図った。次年度も利用者様の状況に合わせて受け入れをしていくと共に、みどり学園、居宅かきつばたや青い鳥工房と連携し新規の利用者獲得に努める。

・長期利用者の高齢化や身体機能の低下などの課題はあるが、体調不良者や緊急時の対応等も含めて、個々の対応の手順化や情報共有を強化し、利用者様を受け入れやすい環境づくりを行う。

・利用者様のこだわりへの対応などは課題や役割の創出や、支援の統一化を図り、トラブルに発展しないよう余暇時間の充実が必要となる。

・個人面談を行い、理念の浸透や支援の方針について共通の理解を深めると共に研修活動を通し職員の支援の質を高める事が必要。

○山武青い鳥工房

実施事業

- ・生活介護（定員30名）

利用者状況

平均年齢：全体 43.9 歳（男性 44.4 歳 女性 43 歳）

最高齢 ：75 歳

最年少 ：19 歳

障害支援区分（平均 5.0）

区分	1（無）	2	3	4	5	6	合計
男性	0	0	1	10	9	14	34
女性	0	0	1	4	6	9	20
合計	0	0	2	14	15	23	54

利用稼働率

生活介護 97.8%

年間行事報告

月	目的	内容
4月	レク	お花見ドライブ
5月		
6月		
7月	行事	納涼祭
8月	レク	かき氷
9月		
10月	レク	ハロウィン
11月	レク	焼き芋
12月	行事	クリスマス会
1月		
2月	レク	節分
3月	レク	白子ドライブ

本年度事業の重点項目

- ・共生型放課後等デイサービスにした強みを活かしてスムーズに移行できるように放課後等デイサービス・生活介護一体で受け入れ態勢を強化していくと共に、特別支援学校の実習を終えた方々が、卒業後の利用に繋がるように学校や相談支援事業所との情報共有・連携を図り、新規利用者様確保に繋げる。
- ・特浴の導入により、高齢化・重度化したみどり学園の利用者様や地域の重度障がいの方を受け入れるなど、入浴ニーズに柔軟に対応していく。
- ・子ども食堂を通じて、各事業所の作品販売や日々の活動・食事など写真や映像で掲示し、翡翠会をPRする。ボランティアで来てくれた方々に法人への就職に繋がるよう働きかける。
- ・福祉系大学や専門学校からの実習生を積極的に受け入れ、翡翠会をアピールすることで法人への就職に繋がるように働きかける。
- ・送迎車の更新を検討する。
- ・カサ・ロサダの短期入所利用者様の日中活動の場として受け入れを行う。

次年度への考察

- ・年度末に卒業を迎える方がいるため、生活介護へスムーズに移行できるように保護者や学校、相談支援事業所と連携を図っていく。放課後等デイサービスからスムーズな移行ができることを各所にアピールし、新規利用の獲得につなげていく。
- ・カサ・ロサダの短期入所を利用される方の通所先として、柔軟な受け入れを行っていく。
- ・特別支援学校からの実習生の受け入れを行い、事業所の利用や、卒業後の進路の選択肢になるよう柔軟な対応をしていく。
- ・子ども食堂を通じて、地域や学生ボランティアへ翡翠会をPRしていく。
- ・大学や専門学校からの実習生の受け入れや、実習担当の先生へ翡翠会をアピールし法人への就職へつながるように働きかける。



→特浴増設（清水基金助成）



→リフト車導入（中山馬主協会助成）

○山武青い鳥の家

実施事業

- ・放課後等デイサービス（定員１０名）

利用者状況

平均年齢：全体 14.6 歳（男性 14.7 歳 女性 14.5 歳）

最高齢 ：17 歳

最年少 ：8 歳

障害支援区分

区分 1 2 3 合計

男性				
女性				
合計				

利用稼働率

放課後等デイサービス 47.2%

年間行事報告

月	目的	内容
4 月	レク	お花見ドライブ
5 月	レク	外遊び
6 月		
7 月	行事	納涼祭
8 月	レク	かき氷
9 月		
10 月		
11 月		
12 月	行事	クリスマス会
1 月	レク	
2 月	レク	節分
3 月	レク	買い物体験

本年度事業の重点項目

- ・学校、相談支援事業所へ共生型放課後等デイサービスメリット等を伝え、将来的に生活介護が必要な利用者様の情報共有を図る。
- ・特浴の造設が予定されているため、必要な方へ入浴サービスが提供できるよう体制を整える。
- ・2 月より祝日営業を開始したため、必要時に利用できるよう保護者等への情報提供を図る。

次年度への考察

- ・卒業生が4名いらっしゃるので、卒業後の進路についての確認や、受け入れ態勢等について、保護者、学校、相談支援専門員と情報共有しながら進めていく。
- ・特別支援学校からの実習生が、サービスを利用していただけるように、保護者や学校にアピールしていく。他の事業所にはない設備や環境などを見ていただくなどして、新規利用者様の獲得を目指していく。

○カサ・ロサーダ

実施事業

- ・共同生活援助（定員12名）

利用者状況

平均年齢：全体 53 歳（男性 52.4 歳 女性 53.5 歳）

最高齢 ：77 歳

最年少 ：21 歳

障害支援区分（平均 4.45）

区分	1	2	3	4	5	6	合計
男性	0	0	0	5	0	0	5
女性	0	0	1	1	2	2	6
合計	0	0	1	6	2	2	11

利用稼働率

共同生活援助 99.3%

年間行事報告

月	目的	内容
4月	外出	お花見、外食
5月	外出	一休にて手作り弁当、カインズ
6月	お祝い	誕生日会
7月	外出	茂原七夕祭り
8月	レク	お盆食事
9月	お祝い	誕生日会
10月	行事	ハロウィン
11月	外出	千葉動物公園
12月	行事	クリスマス会
1月	レク、行事	年末年始、初詣
2月	レク	バレンタインデー
3月	お祝い	誕生日会

本年度事業の重点項目

- ・空床型短期入所を持っている事を活かし、青い鳥工房等と連携し将来の入居を見据えた体験や、現在の宿泊ニーズに応えられるよう努める。リビングを短期入所用のゾーンに位置付け宿泊しやすい環境の整備。
- ・令和7年度から義務化となる地域連携推進会議の対応。

次年度への考察

- ・GH 増設に向けて準備を進め、個々のニーズを把握しながらマッチングを考え、ご利用予定の方がスムーズに入居できるようにしていく。また、既存の GH に空きが出た場合についても、入居を検討している方などに声を掛けて迅速に動けるようにしていく。
- ・山武青い鳥工房と連携し、ショートステイを併せて利用してもらったり、体験宿泊などの機会を増やすことで、色々なニーズに対応できるようにしていく。
- ・地域生活支援拠点の登録がされている為、緊急短期入所について相談があった場合、法人内の各事業所の特徴を考えながら受け入れを積極的に検討していく。
- ・利用者様個々の特性、ニーズに応えられるように柔軟に対応していく。
- ・地域連携推進会議を開き、ご家族や地域にお住まいの方などに GH での生活についてしっかりと知ってもらえるようにしていく。

〇すえひろ工房やまぶき

実施事業

- ・生活介護（定員20名）

利用者状況

平均年齢：全体42.9歳（男性43.9歳 女性42.0歳）

最高齢：71歳

最年少：19歳

障害支援区分（平均4.98）

区分	1（無）	2	3	4	5	6	合計
男性	0	0	0	3	8	12	23
女性	0	1	3	8	6	7	25
合計	0	1	3	11	14	19	48

利用稼働率

生活介護 98.1%

年間行事報告

月	目的	内容
4月	社会体験	お花見

	社会体験	外食(すき家)
	社会体験	いちご狩り
5月	地域交流	はんでん木まつりに参加
	社会体験	外食(かっぱ寿司)
6月	社会体験	ハイキング(蓮沼海浜公園)
7月	季節行事	七夕
	地域交流	MTO カフェ
	調理実習	綿あめ作り
8月	社会体験	外食(サイゼリヤ)
	社会体験	買い物(サンピア)
	季節行事	かき氷
9月	社会参加	手をつなぐスポーツのつどい絵画展見学
	他施設との交流	手をつなぐスポーツのつどい参加
10月	地域交流	山武市健康福祉祭り参加
	季節行事	ハロウィン
11月	社会体験	カラオケ BanBan
12月	地域交流	MTO カフェ
	季節行事	クリスマス会
1月	社会体験	初詣(金刀比羅神社)
	社会体験	外食(ばんどう太郎)
2月	季節行事	節分・豆まき
	地域交流	八日市場特別支援学校きらら市に参加(イオンタウン旭)
	社会参加	外食(サイゼリヤ)
	社会参加	買い物(MEGA ドン・キホーテ)
3月	社会参加	外食(バーミヤン)
	調理実習	クレープ作り
	季節行事	お花見・ドライブ

本年度事業の重点項目

- ・緊急の場合はもちろんのこと、地域での利用ニーズにこたえ、スピード感を持って利用開始につなげる。地域生活支援拠点であることぶき庵一休をはじめ、近隣事業所との連携を密に活動する。
- ・利用者様個々のニーズが盛り込まれた事業運営を行い、現在利用して下さっている方の生活をさらに充実したものにしていく。
- ・近隣の特別支援学校との連携に努め、山武圏域の高等部卒業生の進路として選ばれるように活動メニューを充実させる。
- ・障害者支援施設における地域移行等の意向を踏まえたサービス提供を実施

する。

次年度への考察

利用者様・ご家族の高齢化や障害特性の多様化・重度化、施設入所者様の職住分離に対応するため、積極的な利用者様の受け入れや地域ぐるみの支援体制づくり、職員研修の充実が求められる。

特別支援学校の卒業生の方にご利用いただけることができているので、今後も選んでいただけるようニーズの把握に努める。また、何よりも現在利用している方々が「楽しい、明日も来たい」と思っていたけるよう、活動内容のさらなる充実を図っていく。

ことぶき庵一休をはじめ、他の事業所との連携を強化し、利用者様が住み慣れた地域で自分らしい生活を継続できるよう、地域の支えとなっていきたい。

地域行事参加や外出の機会を大切にしていくことで、利用者様と職員の経験値アップと地域の方々への認知の向上を図り、地域資源として認められるよう日々の活動に取り組んでいく。

○ことぶき庵一休

実施事業

- ・短期入所（定員5名）

利用者状況

平均年齢：全体36.6歳（男性32.7歳 女性38.7歳）

最高齢：64歳

最年少：16歳

障害支援区分（平均4.41）

区分	1	2	3	4	5	6	合計
男性	0	0	1	2	2	1	6
女性	0	1	3	2	1	4	11
合計	0	1	4	4	3	5	17

利用稼働率

短期入所 59.6%

年間行事報告

月	目的	内容
4月	余暇活動	買い物・ドライブ
5月	余暇活動	KURKKU FIELDS DINING にてティータイム
6月	余暇活動	買い物・ドライブ
7月	余暇活動	買い物・ドライブ
8月	余暇活動	買い物・ドライブ

9月	余暇活動	TOKYO BAY ららぽーとにてスイーツバイキング
10月	余暇活動	買い物・ドライブ
11月	余暇活動	買い物・ドライブ
12月	余暇活動	買い物・ドライブ
1月	余暇活動	買い物・ドライブ
2月	余暇活動	買い物・ドライブ
3月	余暇活動	お花見・買い物・ドライブ

本年度事業の重点項目

- ・地域生活支援拠点として、緊急的な利用開始はもちろん、施設入所待機者様や一時保護中の利用者様の受け皿となれるよう関係機関との連携を密にしていく。
- ・強度行動障害支援者研修やその他の研修を通して各職員が支援者としての専門性を向上させ、緊急的な問題や複合的な問題・重度障害にもしっかりと対応できるようにしていく。
- ・「ひとりだちを見据えた自立活動」としての利用を大切にとらえ、将来を見据えた視点で支援をしていく。
- ・生活介護事業所であるすえひろ工房やまぶきと一体的な運営を目指す。
- ・ことぶき庵一休でイベントを開催するなど利用者様が利用したいと思える動機づけにも注力していく。

次年度への考察

重度障害者や児童などご家族の対応が困難なケースにおいて短期入所のニーズが高い傾向が見られているため、今後もこのようなケースへの積極的関与を徹底していく。また、緊急時対応のケースについても最大限に受け入れ態勢を整えていく。ご家庭の課題を解決するためのサポートをすること、緊急時対応の実績を積み重ねること、重度障害者への専門的支援を徹底することで、地域に不可欠な社会資源として存在感を高める。また、利用者様が自分の家の様にリラックスして過ごせるように配慮することや休日には行きたい場所への外出なども取り入れ、楽しく利用できるような工夫にも力を入れていく。

〇かきつばた

実施事業

- ・地域密着型高齢者小規模多機能型居宅介護事業所
登録定員 29 名 通いサービス利用定員 15 名
宿泊サービス利用定員 7 名
- ・共生型生活介護
- ・共生型短期入所

利用者状況

平均年齢：全体 83.3 歳（男性 78.2 歳 女性 84.9 歳）

最高齢 ： 95 歳

最年少 ： 57 歳

介護度（平均 1.6）

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	区変中	合計
男性	0	2	1	2	1	0	0	0	6
女性	1	5	2	6	4	2	1	1	22
合計	1	7	3	8	5	2	1	1	28

利用稼働率

通い 64.5%

泊まり 67.9%

訪問 6,417 回（年間総数）

年間行事報告

月	目的	内容
4 月	季節感を味わって頂く お誕生日のお祝い	お花見 お誕生日会
5 月	お誕生日のお祝い	お誕生日会
6 月	お誕生日のお祝い	お誕生日会
7 月	季節感を味わって頂く お誕生日のお祝い	納涼会 お誕生日会
8 月	お誕生日のお祝い	お誕生日会
9 月	季節感を味わって頂く お誕生日のお祝い	敬老会 お誕生日会
10 月	季節感を味わって頂く お誕生日のお祝い	ハロウィンパーティー お誕生日会
11 月	お誕生日のお祝い	お誕生日会
12 月	季節感を味わって頂く お誕生日のお祝い	クリスマス会 お誕生日会
1 月	季節感を味わって頂く お誕生日のお祝い	新年会 お誕生日会
2 月	季節感を味わって頂く お誕生日のお祝い	節分豆まき お誕生日会
3 月	お誕生日のお祝い	お誕生日会

本年度事業の重点項目

・昨年度春から初夏は営業が取れずに登録者数が大きく落ち込んだが、居宅かきつばた、包括支援センター、大網病院、在宅支援センターのご協力あり、最近ではほぼ登録定員数いっぱいの数をキープしている。これからも地域の方々に信頼される事業所であれるよう努めていく。

・昨年度は登録者の連泊が多く、本当にショート利用を必要としている方にサービスが一部提供出来なかったこともあった。連泊されている方のニーズにも応えつつ、登録者に不公平感が出ないような運営をしていく。

・現在も利用料の殆どを現金集金しており、そこにある程度の時間を割かれている。引き落としや振込みなど銀行を介して入金されている方には手数料をお支払い頂いているのに、現金入金で手間がかかっている方は手数料が発生しないと云う矛盾も発生している。本年度は、集金代行サービスの活用を推進していく。

次年度への考察

・本年度、高齢や 2026 基礎疾患を有する登録者の御逝去が相次いだ。当事業所では直接の「看取り」は行っていないものの、急変や衰弱の兆候を見逃さず、協力医療機関やご家族と密に連携し、最期までその方らしい生活を支えた結果であると捉えている。これは地域密着型サービスとして、医療との円滑な連携が機能した証でもある。

・次年度に向けては、こうした「終末期における支援」の質をさらに高め、利用者の状態変化に伴う入れ替わり（稼働率の変動）にも迅速に対応できるよう、居宅介護支援事業所や病院との情報共有をより強化する。また、長年関わった利用者の逝去に対し、スタッフが喪失感を抱え込まず、前向きに次のケアに臨める体制（カンファレンスを通じた想いの共有やメンタルサポート）を整えていく。

・地域ニーズへのより柔軟な対応をする。具体的には、ショート利用の枠調整をより戦略的に行い、特定の利用者に偏らない公平なルールを確立することで、登録者全員が納得感を持って利用できる「地域に開かれた透明性の高い運営」を深化させていく。

〇ほほえみの里かきつばた

実施事業

・地域密着型サービス認知症対応型共同生活介護事業所
定員 18 名

利用者状況

平均年齢：全体 85.1 歳（男性 81 歳 女性 87.2 歳）
最高齢 ：104 歳

最年少 : 70 歳

介護度 (平均 2.9)

	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
	2	1	2	3	4	5	
男性	0	0	2	3	1	0	6
女性	0	1	3	4	3	1	12
合計	0	1	5	7	4	1	18

利用稼働率

共同生活介護

1 階ユニット 97.7%

2 階ユニット 95.9%

年間行事報告

月	目的	内容
4 月	誕生日お祝い 気分転換 避難訓練	誕生会 桜鑑賞(東金方面) 夜間火災想定避難訓練
5 月	苗植え	四角豆苗植え
6 月	誕生日お祝い	誕生会
7 月	誕生日お祝い 季節行事 施設外行事	誕生会 納涼祭 社会福祉協議会七夕まつり
8 月		イベントなし。
9 月	季節行事 誕生日お祝い	敬老会 誕生会
10 月	季節行事	ハロウィン
11 月	季節行事 誕生日お祝い	芋煮会 誕生会
12 月	季節行事 誕生日お祝い	クリスマス会 誕生会
1 月	季節行事 誕生日お祝い 避難訓練	初詣イベント 誕生会 日中火災想定避難訓練
2 月	季節行事 誕生日お祝い 気分転換	節分 誕生会 桜鑑賞ドライブ(白子方面)
3 月	気分転換	ドライブ(九十九里方面)

本年度事業の重点項目

- ・入居相談から短期利用、入居に繋げられる体制構築。

小規模多機能、居宅との入居に向けた連携体制の継続。

- ・理念に基づいたケアの実施。

生産性向上委員会を立ち上げた。生産性推進体制加算取得を目指し、体験会や研修に参加、デモ機の導入を行う。既存の情報デバイス、ICT を積極活用し、DX を推進していくことで業務効率化を図る。少人数で対応ができる環境作りを行い、余裕を持ち、入居者様のケアを充実させる。

- ・災害に強い施設作り。

非常用自家発電の補助金再申請を行うこと。作成した BCP を訓練する事でより実用的なものにしていく。

- ・マルチタスク化。

複数の役割を担うことが出来る人材の育成。

次年度への考察

- ・人材育成

次年度は在籍 2-3 年の職員が多く在籍していることから認知症介護実践研修を受講し、認知症の専門性を高めていく。また計画作成担当者を育成し、ケアプラン作成により多く携わるようにしていき、ケアの質を高めていく。

非常勤職員、夜勤専従の職員にも正職員同様年間研修計画を策定し、E ケアラボを中心に受講を行うことで資質向上を行っていく。

管理者育成を前年から行っており、業務分散、効率化に成功しているため、引き続き取り組んでいく。

- ・業務効率化、生産性向上

当事業所は ICT を積極的に導入している事業所であり、生産性向上委員のメンバーが補助金申請に携わり、浴室改装と介護リフト浴の機械を導入した。

コミュニケーションロボット（ゆめちゃん）もセラピー目的で導入しており、スタッフや入居者様の理念実現に貢献している。

次年度は早々に生産性向上推進体制加算Ⅱを申請。AI を活用したツールの導入や業務効率アップセンターに相談し、移乗介助や排泄介助等のデモ機の試用を行っていく。時間外の減少、有給消化率 100%を実現し、更なる効率化、理念の実現を目指していく。

○居宅介護支援事業所かきつばた

実施事業

・居宅介護支援

利用者状況

平均年齢：全体 83.6 歳（男性 82.9 歳 女性 84.0 歳）

最高齢 ：99 歳

最年少 ：51 歳

介護度(令和 8 年 3 月末時点)

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
男性	2	1	4	5	4	2	2	20
女性	13	11	10	10	4	3	3	54
合計	15	12	14	15	8	5	5	74

利用稼働率

契約者数 74 名

・特定相談支援事業

担当者数(令和 8 年 3 月末時点) 84 名（男性 57 名 女性 27 名）

・障害児相談支援事業

担当者数(令和 8 年 3 月末時点) 3 名（男性 1 名 女性 2 名）

本年度事業の重点項目

- ・障がい・介護共に、短期・長期入所、通所と多様なサービスを提供する法人の特性を活かした相談支援が提供できるよう法人内の事業との連携を益々強化していく
- ・障がい者の支援を行う親世代の高齢化、介護では 90 歳代のご夫婦の老老介護、子世帯も高齢期になっている家庭が増加している。家族まるごと支援の視点で相談支援を提供する
- ・相談支援専門員自身が子育て中でもあることを活かし、障がい児支援の受け入れも積極的に行っていく
- ・地域生活拠点事業では法人内の緊急短期を受け入れた事業所と連携しサービスにつながっていなかった障がい者様の安心できる生活の場の提供に迅速に対応する
- ・介護支援では令和 6 年の介護保険法改正後要支援認定者の担当受け入れ事業所が減少しているが、介護難民を出さない観点から地域包括と連携し、要支援者様の委託も出来る限り受け、軽度の中から長いご支援の提供を行って、地域の高齢者の支えとなる
- ・介護担当人数の上限が介護認定者のみの場合 44 名と増加した。居宅介護支援の質の低下を招かないよう配慮を行いながら担当利用者様を増やす

次年度への考察

- ・居宅介護支援

昨年度、担当利用者については新規対応もあったが、同時に終結もあったため、微増にとどまっている。取り巻く環境としては、高齢化に伴い、介護保険制度の需要はさらに増していくと考えられる。そのような中で、次年度、さらに担当者を増やしていくためには、業務をより合理化し・職員の質の向上を図っていく必要がある。そのための手段として、ICT の活用・他機関との連携・研修参加等実践するための計画を立てていく。

- ・特定相談支援事業、障害児相談支援事業

昨年度、相談支援員 1 名が退職し、約 50 名を外部の相談支援事業所へ移管し、現在の担当者数となっている。相談支援としては、経験が浅い職員が多いので、次年度については、他の相談支援員と顔の見える関係づくりや、基幹や行政との連携を強化していく必要がある。職員一人一人のスキルをアップすることで、次年度以降新規利用者が受け入れられるように計画を立ていく。

- ・共通

高齢者人口が増えるとともに、様々な問題を抱える家族等。複数の問題を抱えた世帯も増加している。次年度もさらに増えていくことが予測される。そのような家族・世帯に対応していくために、職員の知識を増やすこと、色々な機関との連携を積極的に行っていく必要がある。そのためには、行政等が主催する研修や事例検討会等に積極的に参加するよう計画を立てていく。

○感染症・災害対策部会

事業の重点項目

（感染症対策）

- ・脱マスク着用化

コロナウイルス 5 類に移行から今年に入り 2 年が経過する。体調不良やインフルエンザ等の感染症流行期は着用を推奨するが入居者様との円滑なコミュニケーションを図る上ではマスクの着用は不要である為、コロナ前の対応に戻すようにしていく。マスク着用の目安として、感染症流行期の判断は感染症対策部会の方から警報や注意報を出していく。

- ・感染症啓発活動の推進の継続。

インフルエンザ、新型コロナウイルス、疥癬など特に施設サービスでは集団感染が何年も継続して発生している。感染症に備えるため、外部講師の招聘、Eラーニングなどの研修を開催、情報発信し、啓発活動に努める。

職員が感染症に罹患した際の対応マニュアルの認識の違いがあり、浸透していない。全職員が理解できるよう情報をアップデートしていく。

（災害対策）

- ・大規模災害を想定した避難訓練の実施。まずは 2 事業所間で連携して避難訓練を行い、その後に全事業所と連携して避難訓練を行う。
- ・各事業所の車両に車載用の災害対策グッズの用意。
- ・各事業所での研修・訓練の実施を定期的に行い、BCPのアップデートを行う。
- ・各事業所と翡翠会全体の非常食の定期的なチェック、見直しを行う。

次年度への考察

(感染症対策)

- ・脱マスク化に関して、各事業所の上長の判断で外す事を取り決めたことにより、コロナ前のように利用者様に顔を見せて円滑にコミュニケーションが出来るようになってきている。引き続き、マスク着用の目安として感染症流行期の判断は感染症対策部会の方から警報や注意報を出していく。
- ・次年度以降もコロナやインフルエンザ等の感染症の蔓延が予測される。そのため引き続き模擬訓練や机上訓練を行なっていく必要がある
- ・感染症等が流行った際の事業所間の職員の応援体制の構築。
- ・研修への定期的な参加。
- ・感染症における備品の在庫管理（ローリングストック）。

(災害対策)

- ・パート職員にもタブレットが配布された為、連絡訓練への参加。
- ・各事業所の避難訓練を計画的に行う。
- ・大規模災害を想定した机上訓練を定期的に行い、災害に備える。
- ・大規模災害を想定した実動訓練の実施。
- ・車内へのハザードマップ、必要物品の備え付けの管理。
- ・備蓄品の在庫管理（ローリングストック）

○虐待防止部会・身体拘束適正化部会

事業の重点項目

- ・虐待防止、身体拘束適正化に関わる指針の整備を行なうと共に、各職員に内容の周知を図る。
- ・虐待防止、身体拘束適正化に関する外部研修に参加し、各事業所に伝達研修を行なうことで、知識、支援の向上を図る。
- ・翡翠会独自の職員セルフチェック表を作成・実施し、支援の振り返りを行なうと共に、各事業所の結果に合わせた内部研修を行なう。
- ・巡回訪問を行ない、不適切な支援が行われていないか、不適切な支援に繋がる運営環境にないか等を確認し、風通しの良い職場づくりに努める。
- ・2 ヶ月毎に、各事業所の身体拘束事案を確認・検証し、不適正な身体拘束が

行なわれていないか確認する。

- ・通報事案が発生した際に、当該事業所と連携をとり、検証・再発防止策を確認する。検証結果については、法人内で共有する。

次年度への考察

- ・訪問巡回でのリモート開催の回数を増やすことで、ICT を活用した見守り・連携としての巡回を活発化させるとともに翡翠会全体での虐待防止部会の活動を強化していく。

- ・セルフチェックリストの回答率の向上は見られていたため、やり方を引き継ぐと同時に、内容については今後も検討していく。

○人材確保・生産性向上部会

事業の重点項目

- ・人材確保と育成・定着に関して、各事業所（部署）が抱える問題点の洗い出しとアンケート調査等を利用した収集作業を行う。検討し改善計画を策定し、現場責任者とともに見直しを実行する。

- ・翡翠会と各事業所（部署）の魅力構築と複数チャンネルを用いた情報発信を行う。

- ・人材確保が年々厳しくなっていることを踏まえ、少数精鋭での業務遂行に向け職員個人のスキルアップ情報を集め、研修参加を促すなどの自己研鑽への支援を行う。

- ・職員へのエンゲージメント調査を実施する。

次年度への考察

- ・発足２年目となる令和７年度は、人材確保と生産性向上の２本柱で活動実施。

- ・他法人見学（８月）では、外国人人材の獲得と定着に関する学びの場となり、秋の全体法人研修にて見学報告を行い、法人全体で共有することができた。

- ・部会員が所属するほほえみの里かきつばたに関しては、定期的に SNS 発信ができた。また、子ども食堂で部会員が撮影を担当した。次年度は SNS 部会が別途発足するため、協力の上、人材確保へ結び付けていきたい。

- ・求人サイト「engage」のコンテンツ作成とスカウト活動にも力を入れた。

- ・労働生産性向上を図るための旗振り役育成のため、部会員２名が「DX 学校」へ参加し、新スキル取得。提出物のオンライン申請の仕組み構築へ繋げている。

- ・業務における生産性向上の一環として、AI ロボット「らぼっと」の試験的導入に関するフィードバック調査を実施。介護事業所と障がい者事業所では、利用方法、効果に差異が見られた。概ねスタッフのメンタルケア部分では好意的な結果が得られたが、費用的なネックのため導入見送り。なおほほえみの里かきつばたは、より小型の AI ロボット「lopel」を導入活用している。

- ・全スタッフへ向け端末整備と配布実施（正職員→PC、パート→タブレット）。併せて、全スタッフがLWとGWSの利用を開始している。
- ・エンゲージメントリサーチは、法人事務局主導で行うこととなり、令和8年度実施予定である。

○地域における公益的な取り組み

実施事業

- ・ひすいかい子ども食堂（子ども食堂）

実施・参加状況

- ・年4回 開催 お弁当・食材配布形式で開催
（5月25日・11月30日・2月1日・3月29日）
- ・年間参加者 261名
- ・大網ロータリークラブ協賛による資金・食材の提供

事業の重点項目

・本会が開催する「ひすいかい子ども食堂」も、大網ロータリークラブや大網白里市に加え、パルシステム等協力団体が増加してきた。今後も関係機関と連携し、地域のニーズに合わせた運営を行う。

年4回 お弁当配布で開催予定。

（5月・11月・1月・3月に開催予定）

次年度への考察

8年目を迎えた「ひすいかい子ども食堂」。大網ロータリークラブの多大な協力のもと、だいぶ当市の方々に浸透してきた。客層は子ども・大人が半分ずつで、大人は特に高齢者が多い。子ども食堂というよりは、誰もが参加できる場となってきている。農林水産省より政府備蓄米の提供もあり、食材配布も大変好評であった。フードバンクさんぶやパルシステム等、様々な機関と連携し、地域の方々の期待に応えられるよう、事業を継続していきたい。